

牛乳の生産と消費について



農林水産省畜産局牛乳乳製品課長
大熊 規義

平素より農政の推進に御理解・御協力を賜り、御礼申し上げます。本稿では、生乳（乳牛から搾ったままの乳）の需給動向や消費拡大等の取組について御紹介します。

1. 生乳の需給構造について

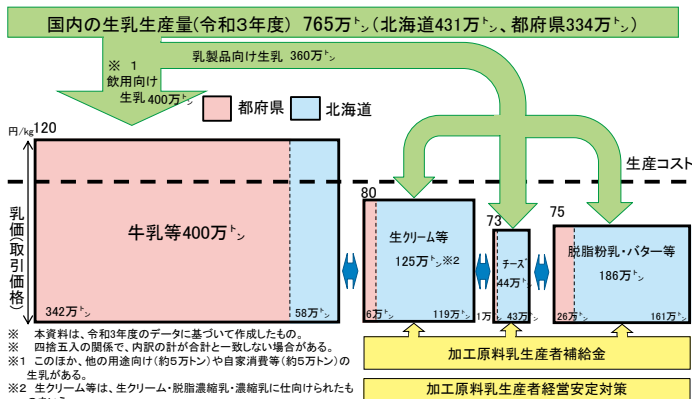
生乳は、毎日生産され腐敗しやすく貯蔵性がないことから、需要に応じ飲用と乳製品の仕向け量を調整しています。乳価（乳業メーカーと生産者団体等との取引価格）は、生乳の用途毎に異なっており、飲用牛乳は、長期保存がきかないため、需要に応じて生産され、また、輸入品と競合しないため、その乳価は生産コストを上回っています。他方、バターや脱脂粉乳等の乳製品は長期保存が可能であることから、生乳の需給調整の役割を果たしていますが、輸入品と競合するため、乳価が生産コストを下回っています。この乳価と生産コストの差については、国が補給金を交付し、生乳の再生産を確保しており、これにより生乳需給全体の安定と酪農家の経営安定を図っています。

なお、バター・脱脂粉乳の輸入については、無秩序に輸入されると国内の需給調整に悪影響を及ぼすため、国家貿易によりその種類、量、時期等を調節しています（図1）。

2. 生産量等の推移について

生乳の生産量は、飼養頭数の減少等により減少傾向でしたが、生産基盤強化対策等により令和元年度に増加に転じ、令和3年度は765万トンでした（図1）。なお、輸入乳製品を含む我が国の生乳の総需要は約1,200万トンとなっています。

牛乳等への仕向け量は、長期的には他の飲料との競合により減少してきましたが、近年は健康志向の高まり等により横ばいで推移しています。乳製品への仕向け量は、令和元年度以降、生乳生産量が増加に転じるとともに、需給調整品目であるバター・脱脂粉乳向けが増加した結果増加しています（図2）。



※ 本資料は、令和3年度のデータに基づいて作成したものである。
 ※ 四捨五入の関係で、内訳の計が合計と一致しない場合がある。
 ※1 このほか、他の用途向け(約5万^ト)や自家消費等(約5万^ト)の生乳がある。
 ※2 生クリーム等は、生クリーム・脱脂濃縮乳・濃縮乳に仕向けられたものをいう。

	30年度	令和元年度	2年度	3年度
生産量	728 (▲0.1)	736 (+1.1)	743 (+1.0)	765 (+2.9)
牛乳等向け処理量	401 (+0.6)	400 (▲0.2)	403 (+0.9)	400 (▲0.9)
乳製品向け処理量	323 (▲0.8)	332 (+2.8)	335 (+1.0)	360 (+7.3)
うち脱脂粉乳・バター等向け	148 (-)	159 (+7.4)	170 (+6.3)	186 (+10.0)
うちチーズ向け	40 (-)	40 (+0.2)	41 (+2.4)	44 (+5.7)
うち生クリーム等向け	127 (-)	125 (▲1.6)	119 (▲4.1)	125 (+4.3)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独)農畜産業振興機構「販売生乳数量等(速報)」

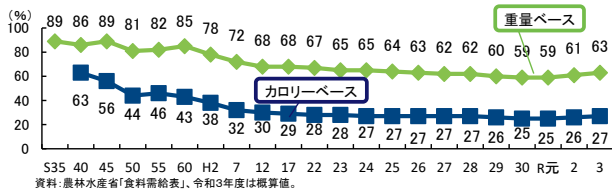
3.

牛乳・乳製品の消費動向等について



牛乳等の1人あたり消費量は近年横ばいで推移しております。また、乳製品の1人あたり消費量は、食生活の多様化等に伴い、チーズ、生クリームの消費が拡大しています。

また、牛乳・乳製品の自給率は、令和3年度は生乳生産量が増加したことから重量ベースでは前年度より2ポイント増加し、63%となっています。(図3)

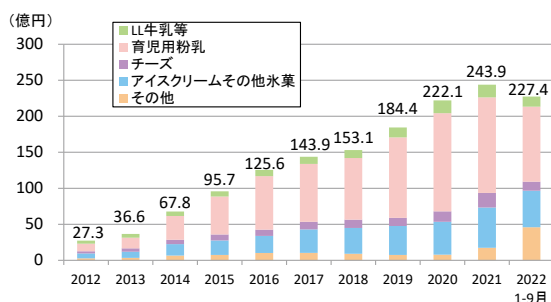


4.

牛乳・乳製品の輸出動向等について

日本国内の食のマーケットの縮小が見込まれる中、政府においては、農林水産物・食品について、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円の輸出額目標を設定しており、牛乳・乳製品についても重点品目に位置づけられています。

牛乳・乳製品の輸出実績は、近年堅調に増加しており、令和3年は244億円と過去最高となりました。令和4年についても、9月時点で対前年比126%の227億円となっています(図4)。農林水産省では輸出目標の達



成に向け、①生産者、乳業者、輸出事業者の3者が連携したコンソーシアムによるプロモーションの実施、②輸出先国が求める水準を満たす乳業施設の整備への支援等を通じて、更なる輸出拡大を推進しています。

5.

生乳の需給緩和・消費拡大について

生乳は、例年、学校給食が停止する春先と年末年始に需給が緩和するため、乳業メーカーでは、この時期に脱脂粉乳・バター、チーズの製造量を増加させて需給を調整しています。しかし、前述したとおり、生乳生産量が増加に転じたタイミングで新型コロナウイルスの影響により業務用需要が低下したことで、生乳需給は大変厳しい状況となっています。農林水産省では足元の需給ギャップを改善するため、令和4年度補正予算において、生乳の生産抑制や乳製品の在庫低減対策への支援を行っています。また、生乳需給の改善のためには牛乳乳製品の消費拡大も重要なため、BUZZ MAFF等を通じて消費拡大を呼びかけるほか、令和4年6月に「牛乳でスマイルプロジェクト」を(一社)Jミルクとともに立ち上げました。本プロジェクトでは、趣旨に賛同いただける企業・団体・自治体など幅広い方々に参画していただき、共通ロゴマークの下で一体感を持って更なる牛乳乳製品の消費拡大に取り組んでいます。

6.

おわりに



飼料等の生産コストが上昇し、酪農経営は厳しい状況となっていますが、引き続き酪農業に関わる皆様に寄り添った施策の推進に努めてまいります。